



博物館友の会より

題字：千葉半厩

文化振興ニュース

昆布技術文化財登録&平常展示図録完成

「敦賀のおぼろ昆布製造技術」が国登録無形民俗文化財に指定されることになりました。登録無形民俗文化財は、無形の民俗文化財のうち、保存及び活用のための措置が特に必要とされるものとして文化財登録原簿に登録されたもので、令和三年（二〇二二）四月に文化財保護法の一部が改正され、同年六月に施行された比較的最近の制度です。よって登録されれば福井県で初めて、全国であわせて8件になります。

古代より交通の要衝であった敦賀には、中世以降、蝦夷（北海道）から昆布が運ばれ、それが加工されて商品となり、明治の初め頃には「細工昆布」（現在のおぼろ昆布・とろろ昆布）が敦賀の主要産業の一つとなりました。なかでも「おぼろ昆布」の製造加工技術は、専門の職人さんが刃物で昆布をごく薄く削るもので、機械では難し



引札
第四回内国勸業博覧会褒賞證書
「刻昆布」（伊藤商店）

く、手作業による伝統的な製法で作られており、地域的な特色あるものとして注目されています。少し昔の敦賀の町中で、つんとした酸っぱいような爽やかな香りに遭遇した思い出を持つ会員様もいるかもしれません。言わずと知れた昆布加工場から漏れ出した、地元民には身近な香りでしたが、今では職人が減ってきているそうです。これを機に優れた技術の伝承が継続される事を願ってやみません。

博物館では令和6年3月16日の北陸新幹線敦賀駅開業祝賀行事にあわせて1・2階において、敦賀市の歴史を通史的に紹介する平常展示を、リニューアルいたしました。今回この内容を図録にまとめました。敦賀の歴史を大まかに俯瞰できる一冊です。



平常展示図録（表紙）
令和7年3月31日発行

西福寺阿弥陀堂の謎

— 一乗谷との所縁とは —

友の会会長 川村 俊彦

西福寺では、二〇二二年度から一五カ年計画で重要文化財の御影堂（大殿）と庫裏を対象とした第2期文化財修復事業を実施している。ついで、工事の順調な進捗と将来への全き保存を願わずにはいられない。

実は、筆者は先の第一期修復事業（二〇〇六年完了）に市の担当として関わった。その経験から阿弥陀堂の「謎」解明について些かの着想を得たので、既に平成二二年度特別展図録中のコラムや、令和四年度友の会総会の記念講演で披露させていただいた。浅学菲才の身として、論を立てるまでには至らないが、あらためてここに開陳しておきたい。

西福寺阿弥陀堂は、中興道残上人が、文禄二年（一五九三）に一乗谷から移築したという寺伝は、人口に膾炙しているが、その経緯や詳細はどのようなものか。

この建物は入母屋造椽瓦葺き、二重屋根の正面五間の仏堂だが、解体調査では、もとは単層屋根の三間堂であった。また、もとは柿葺きだったのを、延享四年（一七四七）、瓦

葺きに変えており、このときの棟札に「文禄二年仲春新建此堂」とある。つまり、現在の半分程の高さの三間堂の古材を用い、その下部に新材を継ぎ足して本屋根を高上げし、さらに下層の屋根（裳階）を廻らせて五間堂に改造したのが、文禄二年の「新建此堂」の謂であったことが判明している。

その古材の元である三間の仏堂とは、一乗谷近郊にあった高尾寺の薬師堂（遺址は現薬師神社）ではないか、というのが筆者の解答案である。

西福寺と一乗谷との縁といえば、法然上人の高弟・源智上人が、西福寺開創以前に同地に結んだ草庵（勢観院）が、後に一乗谷に移り一乗寺と称した（朝倉氏滅亡後は北ノ庄に移転）という伝承にも漠然と伺えるが、それよりも具体的な資料として「八十一難経版本」の存在が注目される。

これは南都出身の僧で、朝倉氏に招聘された谷野一栢が、一乗谷で出版した医書の版本である。一栢は還俗して、足羽川北岸の高尾に屋敷を給わり医業を事とした。その衣鉢を継いだ三崎安指に八十一難経の「版本」が伝えられたが、「版本」は薬師堂に納められた。

織田信長の一乗谷攻めの際に先陣を務めた若

狭国人衆の一人、佐柿国吉城主の粟屋勝久が戦利品としてこれを持ち帰り、西福寺に寄進した。高尾寺も兵火に罹り焼損するが、焼亡を免れた薬師堂が後に解体され、道残上人により西福寺に移築され、「新建此堂」されたのではあるまいか。

なおつけ加えれば、薬師神社近くに湧出る谷水は「亭の水」という眼病平癒に効験のある霊水として知られている。

そして、今日ではあまり語られる機会もないが、実は西福寺の本尊阿弥陀如来の由来も、眼病平癒の霊験譚を伝えているのである。



薬師神社（福井市高尾町）

○令和七年度展示のご案内

令和六年度は新幹線開業を迎えて様々な敦賀の歴史や文化財を取り上げ、対外的に発信しましたが、令和七年度は市民や県内外の人々が改めて敦賀の歴史や優れた文化財にじっくりと目を向け、理解を深めていけるよう意識し、特別展だけでなく平常展（通史展示）の充実も図っていきます。

▼一展示室

平常展示 近代の敦賀（通年）



平常展では、一部のコーナーを入れ替えながら主に敦賀近代の通史展示をしています。

ミニコーナー 「戦後80年記念展（仮称）」

七月一日（火）～八月二十四日（日）

戦後80年を機に戦災資料等を展示します。

▼二展示室

平常展示 古代～近世の敦賀

平常展では、一部展示を入れ替えながら敦賀の古代から近世の通史展示をしています。

▼三階展示室

コレクション展 絵の中の季節

三月十一日（火）～四月二十一日（月）
四季を感じられる美しい作品を展示します。

企画展 ジャクエツコレクション展

四月二十六日（土）～五月十一日（日）
東山魁夷など、近代日本を代表する画家たちによる華麗なる近代絵画コレクションを展示します。

コレクション展

没後130年 蔵出し！幸野楳嶺

五月十六日（金）～七月十三日（日）
今年は今代京都画壇の重鎮で、敦賀にもゆかりのある絵師・幸野楳嶺の没後百三十年の年です。これを記念し、当館の楳嶺作品を全て公開します。

▼二・三階展示室

夏季企画展

大谷吉継

生誕460周年記念展

～拝啓、四百六十の君へ～



七月十六日（水）～八月二十四日（日）
敦賀城主大谷吉継生誕460周年を記念して、吉継発給文書や、関連資料を紹介いたします。

○展示関連イベント

大谷吉継サミット2025 八月十日（日）

登壇者 外岡慎一郎氏・石畑匡基氏・北村太智

二階・ミニコーナー 『おくのほそ道』と敦賀
八月二十七日（水）～十月十三日（月・祝）
芭蕉所用と伝わる竹杖や、蕉翁関係資料を紹介いたします。

三階・小テーマ展示 天狗党資料展

八月二十七日（水）～十月十三日（月・祝）
水戸天狗党についての資料を展示します。

▼二・三階展示室

特別展 つるがのみほとけ

～海辺の祈り・山里の祈り～
十月十七日（金）～十一月三〇日（日）

戦乱の被害をのがれて地域でひっそりと守られてきた仏像や仏画などを展示し、敦賀の祈りの歴史を紹介します。



○令和七年度イベントのご案内

敦博ゼミ①

「大谷吉継概論〜吉継とは何者か〜」

（歴史講座）四月〜六月に開催予定。

敦博ゼミ②

「天狗党史跡見学歴史ウォーキング（仮）」

十月頃開催予定。

敦博ゼミ③

「若越八十八カ所巡り歴史ウォーキング（仮）」

十月〜十一月頃開催予定。

敦博ゼミ④

「くずし字入門」（古文書講座）

十月〜十二月頃開催予定。



連携イベント

気比史学会さんの戦後80年企画「敦賀空襲を語り、伝える」等で連携していきます。



焼夷弾

事務局長の期待とつばき...

二〇二五年三月十五日・十六日、

北陸新幹線敦賀開業を祝う「つるが街波祭」が開催されました。JR敦賀駅から氣比神宮周辺、博物館通り、金ヶ崎港まで、敦賀の街全体を舞台にグルメ、音楽、パフォーマンスなど、多彩な催しが繰り広げられ、街は大勢の来場者で大賑わい。

我が敦賀市立博物館では特別ツアーがあり、普段は関係者しか立ち入ることのできないバックヤードや屋上を案内。屋上からは、あいにくの雨だからこそ見える霧がかかった幻想的な敦賀の景色に「なんかいいね〜！」と声が続出、今後の「隠れた名スポット」として期待大に。

また、みなとつるが山車会館では、通常の甲冑体験に加え、市民団体が用意した「軽量甲冑」を使った体験イベントを実施。これなら子どもたちも武将気分を味わえるとあって、「我こそは敦賀城主なり！」とポーズを決める子どもたちの姿に、大人も思わず笑顔。未来の敦賀を担う、新世代の武将たちが誕生した瞬間でした。商店街では敦賀の誇る伝統技術、



明智光秀もツアーに参加！

おぼろ 昆布掻き 体験も大 盛況！国 民俗文 化財に登 録され、 メディア 露出も増

加中のこの技術。実際に職人が目の前で削るおぼろ昆布の繊細な出来に来場者は思わず息をのむほど。「職人技つてすごい〜！」と感嘆する声が聞こえるなか、次々と昆布掻きに挑戦する体験者たち。なんとか手元の昆布が削れるたびに「おお！」と歓声が上がって、会場は大いに盛り上がっていて、新たなおぼろ昆布ファンを獲得する貴重な機会になっておりました！

新幹線開業でますます進化する敦賀、その魅力を存分に味わえた二日間でした。



私（事務局長）が得意の甲冑を着ておぼろ昆布掻きをしています（実はできます！）

博物館友の会だより103号

令和7年3月31日発行
発行 敦賀市立博物館友の会
事務局 敦賀市相生町7-8
TEL 0770-25-7033
FAX 0770-47-6131
E-MAIL museum@ton21.ne.jp

[編集後記]

前回のだよりの発行時期が非常に遅れ（すみません）早々に103号発行です。恐れ入ります。あいにくの雨模様でしたが、街波祭も無事終わり、新年度を迎えます。

来年度、敦賀市立博物館は所管課の文化振興課と共に、教育委員会から離れ、市長部局に再編成されることが決まっています。何が変わってどうなるのか、何だか誰もよく分かっていない様子。春愁つの今日この頃、といったところでしょうか。（会員B）